

# 指標

## 医師会加入促進のためのプロジェクト委員会

副会長  
深澤 雅則

### はじめに

近年、医師の医師会加入率が低下してきており、日本医師会、各都道府県医師会、郡市区医師会のすべてにおいてその傾向が見られる。平成25年12月1日における日医会員数は16万5,955人でちょうど1年前より305人増え、4年振りに増加に転じ、記録が残る戦後以降で最高となったと報告されている。

しかし、この数は医療施設に従事している医師の55%程度の加入率でしかない。過去最高の加入数と言っても国の医師増加対策により現在は毎年1,400名以上の医師がさらに増加していることを考えるとその組織率は年々低下してきているのは事実である。

医師会に未加入の約13万人は大多数が勤務医であ

る。勤務医に対しての入会を勧めなくては医師会会員の増加は望めない。

しかし、医師会に入ることのメリットを勤務医に聞かれても説明に苦慮することが多い。医師会の組織率を上げることはさまざまな場面での発言力を強めることができる。

個々の医師が医政に関する認識を高めることや、加入によりさまざまなメリットが得られるように今年度、北海道医師会では「会員加入促進に関するプロジェクト委員会」を立ち上げることにしている。

### 1. 北海道医師会会員数の減少

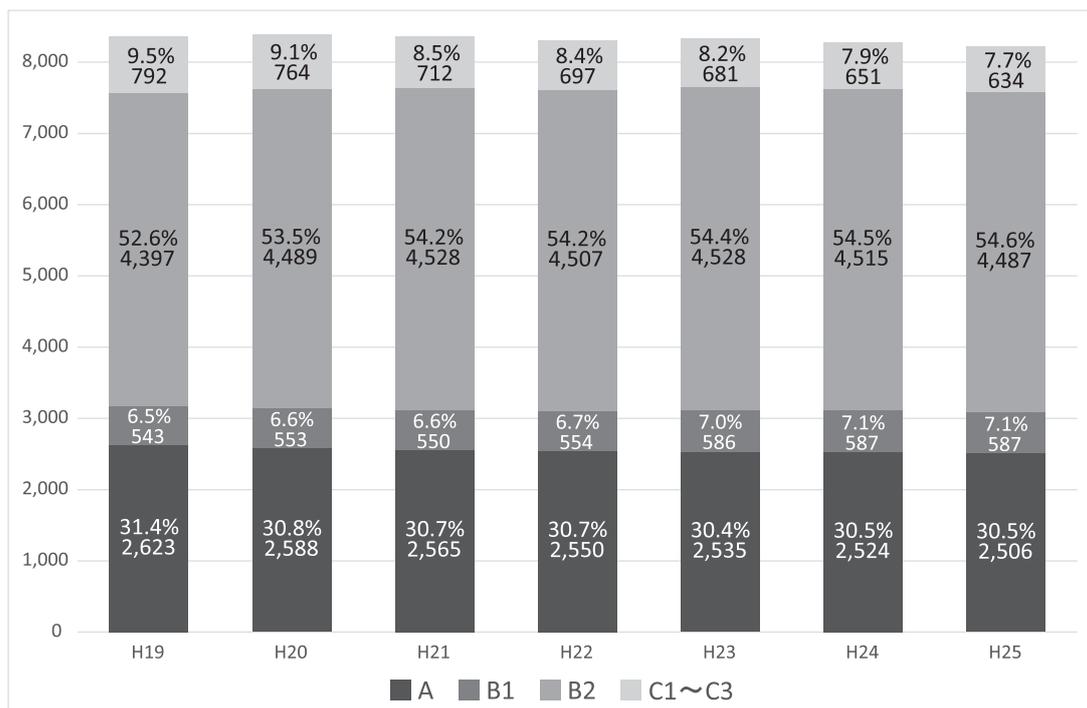
道内には1万2,000人以上の医師がいるが、会員数は年々微減し、平成26年3月31日の会員数は8,214人となっている(表1)。

日医に加入している会員数も同様に減少しており、5,846人となっている。これは診療所、病院の開設者であるA会員の減少が大きい(表2)。

これに関連して日本医師会の代議員数も13名から12名に減少してしまった。都道府県医師会会員500名に1人と決められており、6,000人を割ってしまったための1名減である。何としても会員数を増やして13名の日医代議員数に戻したいものである。次に平成26年4月15日の道医会員種別ごとの日医加入状況(表3)を会員数の多い10都市と三大学について載せてあるが、道医A会員で日医に入っていないのは札幌市がほとんどで、他に7都市あるがいずれも1人か2人である。今後札幌市医師会には特にご協力をお願いしたい。

勤務医会員数に関しては各都市でバラつきがあり、全体としては63.2%の日医加入率である。大学医師会は53.7%である。

表1 道医会員数の推移(各年度末・種別ごと)



## 2. 加入促進のための対策

最近は開業しても郡市医師会にさえ入会しない若い医師が都市部分で増えてきている。一方で勤務医には医師会に入るメリットが感じられないのであろう。各種の医療情報もインターネット等での閲覧が可能となっているし、医賠償保険も所属学会その他で入ることも可能であるため、昔のように各郡市医師会から日医まで入る必要性が薄れている。

北海道医師会でも手をこまねいているわけではなく、以前から医師会に加入してもらうために活動してきている。今後の対策も実現可能かどうかは別にして、さまざまなことを考えている。

今まで実際に行ってきたことや、現在考えていることを述べさせていただく。

### 1) 入会しおりの刷新

現在、以前のものより分かりやすく研修医、女性医師、勤務医から好印象を持たれるよう、イメージアップしたものを作っている。

### 2) 医師会のイメージアップ

日本医師会ではテレビでの医師会の活動広告、BS朝日の「鳥越俊太郎 医療の現場！」の他に、全国紙や地方紙にも意見広告を出しており国民の医師会

に対するイメージがかなり改善してきていると実感している。入会前の若い医師の医師会に対する印象も良くなっているのではなかろうか。

道医においても財源的な制約があるが、道内テレビや新聞の道内版へ医師会の活動を紹介できると良いと思っている。

### 3) 地域医療を担う青少年育成事業

北海道、地元市町村、教育委員会と道医との共催で、地域の小・中学生を対象とした医療体験事業を行うことにより、北海道出身の小・中学生に医師を志すとともに、医師会に親しみを持ってもらうことを期待している。

毎年、長瀬会長が実際に現地で指導をしている。

### 4) 各大学での医師会の紹介

長瀬会長が今まで北大で公衆衛生の講義をされていて、その時に医師会のことを少し紹介していた。今年度からは札幌医大でも講義を頼まれており、医学生に医師会を知ってもらう良い機会である。

### 5) 医学生、研修医をサポートするための会

北海道医師会館で三大学の医学生、研修医と語る会や医学生との座談会を開き、医師会への理解を深めてもらっている。

表2 日医会員数の推移（各年度末・種別ごと）

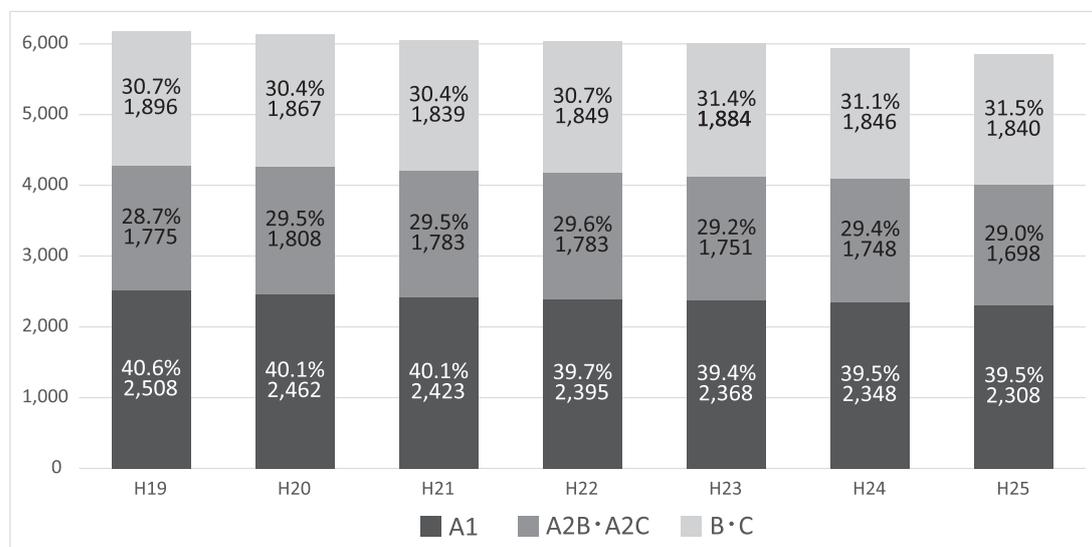


表3 道医会員種別ごとの日医加入状況（平成26年4月15日現在）

郡市名	開業会員数				勤務会員数				医育大学会員数			
	道医A	日医A1	差	日医加入率(%)	道医B1、B2	日医A2B、B、C	差	日医加入率%	道医C1~C3	日医A2B、B、C	差	日医加入率(%)
札幌市	1,063	873	190	82.1	2,084	1,176	908	56.4				
旭川市	220	220	0	100.0	412	289	123	70.1				
函館市	182	182	0	100.0	350	301	49	86.0				
帯広市	82	81	1	98.8	218	83	135	38.1				
小樽市	74	74	0	100.0	175	150	25	85.7				
苫小牧市	85	85	0	100.0	146	109	37	74.7				
釧路市	73	73	0	100.0	150	89	61	59.3				
室蘭市	62	61	1	98.4	138	81	57	58.7				
江別市	66	66	0	100.0	95	56	39	58.9				
北見市	56	56	0	100.0	99	85	14	85.9				
北大									358	204	154	57.0
札幌医大									193	101	92	52.3
旭川医大									80	34	46	42.5

## 6) 勤務医に対して

現在、医師会の加入者は勤務医の方が多くなっているが、未加入者も勤務医が圧倒的に多い。

北海道医師会では勤務医の意見を取り上げ、就業環境を改善すべく種々の事業を行っている。勤務医懇談会、勤務医部会全体会議、医師の就業環境づくりを支援する事業周知のための臨床研修指定病院訪問などである。平成25年度は道内9医療機関を訪問し医師会の事業や活動内容を説明している。

若い勤務医にとって医師会に入りづらいのは、勤務地が変わるたびに地区医師会に入り直さなければならないことである。道内に勤務している限りは自動的に地区医師会を変更できるシステムができないかと考えている。

## 7) 女性医師に対して

今や医科大学入学者の3割以上が女性である。

今後さらに増えると予想している。北海道医師会では女性医師が出産、育児で仕事を辞めてしまわないよう、1人でも多く医師会に入ってもらおうよう活動している。事業を通して医師会に入会してもらおうようしている。

女性医師等復職研修支援事業、女性医師等支援相談窓口事業、子育て支援事業、女性医師の勤務環境の整備に関する病院開設者、病院長、管理者等への講習会等々である。

## 8) 専門医制度に連動して

今年の5月7日に日本専門医機構が発足した。2020年度より新制度の専門医が認定される予定である。幅広い視野の人格を育てる意味でもこの機会に認定試験の受験資格に医師会入会を条件にしてはど

うか。勤務医や大学医師会の入会者は増えるであろう。

## 9) 会員と非会員の差別化

平成25年度会員数が一番増えたA県では産業医の研修会において会員は無料、非会員は有料というようにして回数が多くなると会員になった方が良くと思わせるような方策をとっている。

道医でも一部の研修会においてはすでに実施しているが、今後さまざまな研修会において考えなくてはならない。

## 10) 郡市区医師会の高額な入会金について

本州の郡市区医師会では入会金が非常に高額な所が見受けられる。これは、御典医だったり、先祖代々医者で長く医業を継いだ者が他の者の開業を排除してきた歴史がある。

今の時代、医師会員を増やそうとしている時に、その入り口で諦めさせるのは得策ではない。今後検討すべき課題である。

## おわりに

医師会に入会するのは任意であり、弁護士のように弁護士会に入会しないと活動ができないわけでもないため、加入促進はとて難しいことである。医師1人ずつが崇高な理念とこの国の医療のため医師会に入って大同団結してもらえない。

北海道医師会の取り組みや私見からも書かせてもらったが、今後は「会員加入促進に関するプロジェクト委員会」を設置して検討していく所存である。

皆様方の御理解、御協力をお願い申し上げます。

# お知らせ

## 平成26年経済センサス－基礎調査等の実施について(お願い)

◇北海道から◇

総務省・経済産業省では、わが国のすべての産業分野における企業・事業所の基本的構造を明らかにすること等を目的に、統計法(平成19年法律第53号)に基づいた報告義務のある基幹統計調査として、すべての企業・事業所を対象とした「経済センサス－基礎調査と商業統計調査」を一体的に実施いたします。

つきましては、対象となる事業所には、6月下旬に調査票が配付されることとなっておりますので、各位におかれましても、趣旨をご理解いただき、調査へのご回答をお願いいたします。

(北海道ホームページ「経済センサス－基礎調査」について)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/003ecc/26koho.htm>

(北海道医師会総務部)